

読書の秋です

前期期末考査、そして夏季競技大会が終わりました。特に3年生は進路実現に向けて忙しい日々を過ごしていると思いますが、ひと息ついて楽しんだ後は、また全力投球で頑張りましょう。

このところ、朝夕すっかり涼しくなり、ようやく、秋の気配がチラホラと感じられるようになりました。

落ち着いて読書をするには、最適な季節となりました。読書を通して新たに趣味や興味を見つけ、世界を広げてみませんか？

10月の新着予定本(全25冊)



青の純度/篠田節子/集英社

仕事一筋で駆け抜けてきた編集者・有沢真由子。つかの間の息抜きに訪れたリゾートホテルで、彼女は一枚の絵画と出会う。ジャンピエール・ヴァレーズ。バブル時代に煌びやかな海中画で大衆の心を掴んだが、悪質商法が話題にもなった、“終わった画家”。かつて鼻で笑っていた彼の絵に、不覚にも安らぎを覚えた真由子だったが、ほどなくして都内の外資系ホテルでヴァレーズの原画展が行われるという情報を得る。煌びやかな「バブル絵画」の裏に潜んだ底知れぬ闇に迫る、渾身のアート×ミステリー大長編！



マスカレード・ライフ/東野圭吾/集英社

ホテル・コルテシア東京で開催されることになった『日本推理小説新人賞』の選考会。当日、文学賞受賞の候補者として、ある死体遺棄事件の重要参考人が会場に現れる！警視庁を辞め、コルテシア東京の保安課長となった新田浩介が、お客様の安全確保を第一に新たな活躍をみせる最新作。

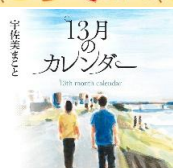


PLURALITY 対立を創造に変える、協働テクノロジーと民主主義の未来/オードリー・タン、E. グレン・ワイル/サイボウズ式ブックス

敵と味方を超越し、調和点をデザインせよ。現代に生きる私たちこそが、未来の共同設計者である。世界はひとつの声に支配されるべきではない。権利 通貨 コミュニケーション 投票 市場 メディア 環境 学習 政策。起こり得る未来を全検証。

他に

- ・三毒狩り(上)(下)/東山彰良/毎日新聞出版
- ・こうふくろう/薬丸岳/小学館
- ・革命と内戦のロシア1917-21(上)(下)/アントニー・ビーヴァー/白水社
- ・ギプス/片島麦子/KADOKAWA
- ・ケアする私の「しんどい」は、どこからくるのか 見えないケア責任を語る言葉を紡ぐために/山根純佳、平山亮/勁草書房
- ・感情を科学する 人を駆り立てるころのはたらき/飯高哲也/化学同人
- ・リボンちゃん/寺地はるな/文藝春秋
- ・宇宙の果てには売店がある 生活感のあるSF掌編集/せきしろ/シカク出版
- ・蕎麦湯が来ない/せきしろ、又吉直樹/マガジンハウス



13月のカレンダー/宇佐美まこと/集英社
疎遠だった亡き祖父母の空き家相続を持ちかけられた侑平は、15年ぶりに松山の地を踏んだ。祖父の書斎で、13月まである不思議なカレンダーと、脳腫瘍を患った祖母の病状を綴った大学ノートを見つける。

読み進めるうち、侑平は祖父母のことを何も知らなかった事実が消沈し、さらに祖母が広島出身で、その兄は原爆で亡くなっていたということを近所の人から初めて知らされる。2人を知る関係者に会うため広島へと赴いた侑平。そこで語られた、原爆投下前後の真実とは。



蛍たちの祈り/町田そのこ/東京創元社

蛍が舞う夜。山間にある小さな町に暮らす中学生の坂邑幸恵と桐生隆之は、どうしようもない状況に追い込まれ、互いの罪を隠し合う“共犯者”となった。15年後、大人になった二人が再会したことをきっかけに、二人とその周囲の人生が大きく動き出す。同僚として、友人として、家族として。罪の記憶に翻弄されながらも、真摯に生きた人々にあたたかなまなざしを注ぐ感動の傑作長編。



SNS選挙という罠 自分の頭で考え直すために/物江潤/平凡社新書

2024年11月の兵庫県知事選では、選挙前の予想を覆し斎藤元彦氏が再選を果たした。そのときSNSではいったい何が起こっていたのか？ SNS選挙の構造と危険性を検証するとともに、ネット上に溢れる情報との向き合い方を「自立の思想」を論じた吉本隆明の言葉から考える。虚実入り混じるSNS選挙の時代に私たちは何を信じればよいのか？

8月末クラス別利用状況

クラス	1組	2組	3組	4組	職員	計	総計
1年	0	0	1	0		1	6
2年	0	0	0	0		0	
3年	0	0	0	0		0	
職員					5	5	

小論文対策の新聞記事
あります。詳しくは、司書室
今まで。